

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371401221		
法人名	有限会社 ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム 緑葉の家 1号館		
所在地	名古屋市緑区水広三丁目715番地		
自己評価作成日	平成30年12月9日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371401221-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371401221-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年12月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「長生きしたくなる家」を最終目標として、その実現に全職員で取り組んでいます。</li> <li>・固定された日課・画一的な押し付けの介護から脱却し、「その時」の「その人が望む」最適な介護サービスの提供を目指しています。</li> <li>・入居前の生活環境との断絶を回避できるように、最大限の支援に取り組んでいます。</li> <li>・一事業所の枠内に留まらず、様々な地域資源・他事業所との連携を強化し、入居者・ご家族の要望に応えるべく努力しています。</li> <li>・毎月の季節の行事企画や外出支援に力を入れています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>新興住宅地のため地域交流の進展はないものの、2つの良策を以て余りある取組みが実現している事業所です。1点目は、コンビニエンスストア、チェーンの薬局や洋服店、喫茶店といった地域資源を活用して、利用者の外気浴を伴う外出支援が充実しています。2点目は前述の取組みにプラスαとして、一人ひとり何日にどこに出かけたかを9名(ユニット)全員『外出票』として一覧にしており、頻度や行き先、ひいては馴染みの場所を把握することで、サービス提供票の作成もスムーズで、一挙両得の取組みとして昇華しています。訪問時にも「散歩日和だね〜。さっきコンビニで買ったの」と、文春をよみふける利用者の姿も視認しました。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・玄関に掲げすぐに確認できる様にしてある。 法人の掲げる理念及び運営目標が書いてある朝礼FAXを職員で毎週読み上げ皆で共有している。	理念は所内に掲示しています。法人本部から届く『朝礼FAX』にも記載されており、週1回の読み上げで浸透を図っています。また7つの目標を各ユニットで検討後14つを考案、1日1つを読み上げ「今日一日留意する」ことも確認する、実践への仕組みがあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を利用者と共に届けたり、地域清掃や廃品回収・防災訓練にも積極的に協力している。行事等近くのコンビニ・ドラッグストアに駐車場を貸してもらっている。散歩時の挨拶や畑から野菜を頂いたりしている。あき祭り、推進会議等声かけして参加していただいている。 自治会の防災訓練に参加している。	自治会には加盟して回覧板も廻ってきており、地域清掃にも利用者と参加していますが、新興住宅地の中にあることで親交が難しい現状にあります。それでも行事には駐車場を貸してもらえたり、折り紙、歌、紙芝居等2団体のボランティアがあります。	図書館は過去には行っていましたが予約制となってから時間調整が難しく、今後も実施が見込めないため、家族や職員宅にある不用書籍を持ち寄って『緑葉文庫』が実現したら良いと思います。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域清掃や近隣のボランティアを定期的に受け入れ施設行事に招待・年に1回のあき祭りでは地域の方にホームを開放している。運営推進会議では介護を取り巻く現状を家族や地域住民を交え意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	緑区北部いきいき支援センター職員や他ホームの館長・近隣住民にも積極的に声かけ参加していただいている。 ホームの現状報告以外に、介護保険法の変更点や法人からの報告などもお伝えしている。 家族の意見や心配事など聞き取り記録しホームの運営に反映させている。	奇数月と定め、隔月開催できています。家族の出席が盛んで常時7名前後、多い時は10名ということもあり、運営報告、意見交換を主な内容とするともに1つテーマを決めて取り組むことが定着しています。また地域からは5、6名のご近所さんが毎回1名程度は参加くださっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催している研修に参加し推進会議時に発表したり職員に伝達し情報を共有している。 市・区役所の担当者来設時や出向いた時などに、事業所の現状を報告するとともに、サービス向上のアドバイスをいただいている。	生活保護者が1名いるため子ども保険課とは双方向のやりとりがあります。集団指導は欠かさず出席するほか、緑区介護保険連絡会に加盟するとともに研修会にも出席しています。また職員には名古屋市のキャリアアップ研修会の案内を回覧、参加を奨励しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や3月に1回身体拘束適正化検討委員会を開き身体拘束についての理解・確認を行っている。 拘束と疑われる事例が発生するたびにミーティング等で介護方法を再検討し、拘束解除に向けて取り組んでいる。各フロアの事務所に、職員の目の届くところにマニュアルが設置されている。	法改正により『身体的拘束適正化検討委員会』が設置され、4月・6月・9月12月と既に4回の開催を終えています。また1日1つの目標を日替わりで留意することは3～4年続けて取り組んでいることから、接遇面を中心に向上がみられています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に組み込まれており、ミーティングや職員会議時などにも、虐待につながる恐れが無いかを確認している。 朝礼FAXに虐待根絶サービス根絶委員会より虐待根絶にむけて呼びかけがあるので職員で読み上げている。 虐待の芽チェックリストを使用して自己確認を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターを利用されている入居者がいるので、来設時話し合いの機会を設けている。 支援が必要と思われる入居者・ご家族には、制度を説明して利用をお勧めしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書類をお渡しして、ご自宅でゆっくりと確認する時間を確保している。契約時には疑問点を解消したうえで契約を心がけている。退居の際には、退居先との連携も含めてご家族と話し合いの場を設定し、対応を相談している。また、改定の際には個別に時間を割いて説明を行い、同意書に捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「気付いたことがありましたら遠慮なく相談して下さい」とのプラカードを掲げている 玄関に政本グループが目指す介護サービス7項目が掲示してあり本部の連絡先が載っている。 ホーム来設時や運営推進会議等に参加された御家族様からの意見や感想を聞く機会を作っている。	家族アンケートには感謝の言葉や事業所を評価していることが伝わる内容が満載です。また運営推進会議では、夜間体制から家族と職員の交流機会にまで及んでの進言がみられ、自由に発言できる関係構築が叶っていることが確認できます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	給与、勤務疑問110番・政本グループ人事委員会からの相談受付等事務所に貼りだしをしている。職員会議、1号館・2号館合同ミーティングなどで、意見交換を行っている。 年2回の社内研修において職員間でホームの改善点や運営について話し合っている。	通常の会議のほかにも、「よりよいホームづくり」に向けた協議が法人主導で年2回実施されており、改善に向けた話し合いの場が設けられています。薬管理のアイデアから薬ボードを作成したり、休憩のとり方など、職員が主体的に業務に取り組んでいることが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働生産性改善委員会を立ち上げ残業ゼロを目指している。 基本給の引き上げや地域手当の加算だけでなく、実績に応じた手当支給や利用率によって達成手当が支給されている。 有給休暇の取りやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修の他、毎月の社内研修や管理者研修等、法人内での研修の場を継続的に設置している。 月給正社員規定、日給正社員規定が定められ、年に2回社員研修(G課程)を行っている。 新入社員には統一した指導が行えるようミーティングを行っている。 外部研修の際にはシフトの休暇を優先している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は可能な限り介護職員を実態調査等に同席させる事によって、同業者との交流・人脈づくりを支援している。 入居相談時ケアマネージャーや相談員をホームに招き入れ、活動内用や状況を話し合っている。 運営推進会議に知見者として他ホームの館長を招いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要に応じて事前面談や見学を数回実施して、ご本人との信頼関係構築に努め、ご本人が納得された上での入居に至るよう心掛けている。 実態調査をホームで行うなどして実際に雰囲気を見ていただいたりしている。実態調査がホーム外でも職員も同行し本人と話し合いの場を設けている。 入居の際、生活パターンの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居までの間に、数回にわたって相談の場を設定し、相談までの経緯や今後のご希望を詳しくお聞きする事により、ニーズの把握や信頼関係の構築に努めている。入居相談の際、必要であればユニットの職員も同席して面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや病院関係者等とも連携し、当ホーム入居だけに固執せず、他系列・他種サービス等の他事業所への紹介も含めて、最善のサービス提供方法を検討している。近隣事業所との良好な関係の維持に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いやレクリエーション・生活リハビリをはじめ、疑似家族として入居者・職員がお互いに支えあえる雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あき祭りや初詣、しだれ梅の花見等の季節の企画に家族の方に参加していただき、関係作りに務めている。 家族が来設され喫茶店やショッピングモールなど近隣の店に外出されます。 野菜の差し入れや家族様の自家用車に職員が同席して出かけることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の支援のもと自宅や近隣の店で昼食を食べに行きます。娘様のボランティアグループも来られ喜ばれています。 昔の教え子や母の日の行事に参加される友人が来設され話をされます。	重度化して地域にある他法人の介護老人保健施設に移った利用者が事業所の祭りに寄ってくださったという嬉しいエピソードがありますが、これは管理者が移設先にも何度となく足を運んでいるからということが大きいものと推量されます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでカルタ・トランプ・数字合わせなど利用者自ら競う様にやられています。 仲の良い利用者同士でリビングのソファに座ったり喫茶外出に行きます。 外部ボランティア来設時、協力し合って作品作りをしている様子が伺えます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に出向き面会や話を聞きにいきます。退居先の関係者とも連携して、サービス向上に協力している。退去後の1年近くの家族が来設され挨拶をされていきました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にコンビニやドラッグストアなどで買い物を楽しみ、おやつ時に珈琲など飲まれている。誕生日に好きであるノンアルコールビールでお祝いをしました。庭先でおやつを食べたりして楽しみを作っている。	意思を伝えることができる利用者が大半なので、「～したい」「～ほしい」には家族と協力して概ね叶えています。意思疎通の難しい1名については、家族が週2回面会に訪れていることもあって、家族の要望の割合が増えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も家族・関係者から情報を収集する機会を増やし、全職員が情報を共有できるように努めている。以前の暮らしや生い立ちについて話をされるので、話を伺いながら情報収集を行っている。以前の施設のケアマネと繋がりを保ちホームに来設されています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、介護詳細記録を毎日書くことにより、状態を細かくチェックしている。看護記録を確認し状態の把握に努めている。必要であれば毎日の検温・血圧計の測定・入浴時は全員測定をしている。なるべく関わる時間を作り状態把握に努めている。朝礼時変化のある利用者の申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の望む生活、ご家族の思いを事前に聞き取り、日々の暮らしぶりを来設時に伝えている。介護記録を毎日記録し介護計画に反映させている。必要に応じて協力医や看護師と連携し助言をいただいている。	職員は毎日介護記録、介護詳細記録に向き合うことでモニタリングを積み重ねています。実施状況を通じての見直し、カンファレンス、介護計画書の作成及びチェック後、家族に確認を求めるという順当な手続きを踏んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にサービス計画書を添付してあり、いつでもすぐに見て把握できるようになっている。介護記録・詳細記録・看護記録・ノート等を利用して心身の状態把握に努め、状況変化に応じて速やかに介護計画を修正できるようにしている。服薬の変更等職員全員が把握できるように申し送りノート・受診記録に記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時により家族で対応できない時など、受診の付き添い及び救急対応・救急車の同乗、入院の付き添いを行います。ホーム近隣の店舗に職員と共に買い物に出かけます。必要であれば時間外の面会にも対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアの導入、消防署や地域の活動や店舗にも積極的に出向き、緊急時にもスムーズに協力していただけるように連携を図っている。訪問リハビリや介護タクシー、介護用品業者との関係を強化し、様々な要望に対応できるように準備をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診の他電話相談もできる。往診来診時、病状の相談にも対応していただいている。事前にファックスを流すことにより、必要な処置をスムーズに行うことができる。歯科の場合は治療の他口腔ケアも行っている。	全員が事業所の協力医に変更し、月2回の訪問診療を受けています。他科受診は家族にお願いしていますが、双方共に『サービス提供状況表』に記載しています。『サービス提供状況表』は毎月1度ある家族訪問であらためて説明のうえ、確認してもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師が出勤時、1週間の状態を伝え情報の共有化を図っている。介護記録、介護詳細記録、受診記録、往診ノートを活用し看護アドバイスの活用に繋げている。必要時主治医に相談連絡を入れる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の医療機関と連携を確保しており、入院の是非・退院後の対応相談も含めて病院関係者との情報交換を頻繁に行い、早期退院・帰所を目指している。協力医や看護師からも、積極的な調整協力を頂いている。入院時ADL報告書を作成し医療従事者が対応しやすいよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった場合、個別に話し合いの場を設けて方針を決めており本人・ご家族の意向に沿うべく、看取りだけではなく、医療機関や他施設への転居等も含めて最善の対応に努めている。入居時、運営推進会議等でも話し合いの場を設けている。主治医・看護師と24時間連絡とれる体制をとっている。	協力医、看護師とは24時間オンコールの体制を整え、医療行為間際まで頑張るよう努めています。移設では本人、家族の意向に添えるよう、話し合いの場を密とし、また移設先にも都度管理者が出向いて連携を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修の他、緊急時の対応手順書を掲示しており、落ち着いて対応が出来るように準備している。救急隊への情報提供表・ADL報告書も定期的に見直しをし、即座に提出できるようにしている。職員が外部研修などにも参加し知識を活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践的な避難訓練を5月と11月に(昼間想定、夜間想定)定期的の実施している。5月は水害訓練実施。災害対策マニュアルが事務所に掲げてあり、いつでも閲覧することができる。毎朝自衛消防組織担当の確認をしている。自治会の防災訓練に参加することにより、協力体制が取れるよう努力している。	火元もわからないようにとシークレットに実施するため、よりリアルな法定訓練を年2回おこなっています。名古屋市の要望に基づき、『自衛消防隊組織編成表』を作成しており、その日の勤務者の内誰が何の役割かが明瞭に定められていて、速やかな対応への準備があります。	

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や毎日の朝礼時、ミーティング・職員会議等によって接遇の徹底を図っている。 利用者の気持ちや言葉をしっかり聞くよう心掛けている。 できる限り丁寧な言葉遣い対応を意識して対応している。 居室清掃時など訪室時声掛けを行っている。	長く働く職員が多いこともあって、利用者本人を熟知した対応が目を見えます。食事を待ちきれない利用者の文句に優しく、スキンシップと併せて対応する姿や、利用者と共に食器を拭きながら、愚痴めいた話や相談に「そうだねえ」と相槌しつつ、受容を繰り返す様子も視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が積極的に話しかけることにより、本人の思いを引き出せるよう努めている。会話の中で利用者の思いややりたいことなど意見を聞くよう心掛けている。 自己決定しやすいよう簡潔に話している。 寝汗で朝着替えをしたい方がいるので洗濯物を出していたいている方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとって生活の場であることを常に意識して、書き物やゲーム、新聞を読む時間を作り、毎日を穏やかに過ごせるよう、支援に努めている。 体力のない方には、居室で横になる時間を設けてある。 必要に応じ時間の取り決めをせず(食事の時間など)柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の商店に職員と共に本人の好みや、季節に合った洋服を買いに行っている。 訪問理美容や爪切りなども定期的に行い、身だしなみに気をつけている。 理美容時髪長さやパーマ・毛染めなど本人の希望に合わせて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを利用者と共に行い盛り付け等行っている。 仲のいい利用者同士でテーブルを囲み食事をしている。 お手伝いできる方には、食器拭きを行っている。 見た目の美味しさにも気を付けている。	予め主食は決められており、副菜はその時の担当者のアレンジで買い出しが毎週おこなわれ、新鮮な食材で職員が手作りしています。お好み焼きなどの参画型もあったり、年1回嗜好調査をおこない、パン食等希望に応じています。	2つの内の1つのユニットは職員が話しかけたり、利用者同士の会話もありましたが、もう1つは会話もなかったため、BGMの導入などの検討を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人や家族の希望される食事量を考慮し提供している。 嚥下の状態が悪い方は刻み食やミキサー食を提供し栄養確保に努めている。 個別にジュースやココア・カルピスの提供を行っています。 ストローを使用し水分摂取されている方もいます。 必要であれば水分チェック表の活用を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の協力を得て、定期的に口腔内の健診を受けている。食後に口腔ケアを行っている。 ポリドントやモンダミン等使用し口腔内の清潔を心がけています。口腔ケアに必要な歯ブラシ・スポンジブラシやコップの清潔保持にも気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけをしてトイレで排泄できるよう努めている。 排尿チェックシートを活用して排泄パターンを把握してなるべくトイレで排泄できるよう支援している。 立位の保てる方はトイレで排泄し、ズボンの上げ下げが出来る方は自分でできるようケアに努めている。	自立の人が多く、利用者は本人が押すシルバーカーのポケットにパッドを入れて持ち歩くことが大半です。布パンとなれた例はありますが、向上はほとんどなく維持がやっとです。便秘の人には最初はヨーグルト、3日でない場合は〇〇を飲む、といった段階を設けて対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取量の維持や毎日の散歩や体操を取り入れている。 腹部マッサージや、家族の支援によるサプリメントの提供なども行っている。 便通の良い食材やヨーグルトの提供を行っている。 必要に応じて主治医・看護師と相談して薬の量の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おき～週2回等、入浴頻度も固定していない。 希望に応じて個別対応や人間関係に配慮し、柔軟に対応している。湯船につかりたい人、シャワー浴がいい人など個別に対応している。 体調の悪い方には清拭や陰部洗浄を行っている。 足湯をされている方もいます。	隔日入浴を目安としています。タイル貼りで民宿並みのスペースがあることから、冬季は湯を出し続けて蒸気充満させ、ヒートショックを防いでいます。いい気分になってムード歌謡を歌う人もいます。シャワー浴の人は足浴も同時におこない、身体が冷えないよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	重度化された方などはクッションを使用したりして、楽な姿勢になる様に工夫をしている。 状況によっては日中でも居室で休めるよう支援している。 光や温度の調節を行っている。 寝具の清潔を保ち睡眠の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護師・薬局と連携をとり、複数の医療機関からの処方箋を協力薬局に一元化して管理している。全利用者の飲まれている薬の一覧ボードを作り一目でわかるようにしている。薬の変更時、申し送りノートや受診記録に記入し職員皆が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者同士でカルタ・数字合わせ・トランプなどを行っている。 食器拭きや洗濯物たたみ等手伝いを行っている。 散歩や外気浴・喫茶外出をする機会をつくり気分転換を図っている。趣味の書道や裁縫が活かせるよう支援をしている。 誕生日会にノンアルコールビールを飲みお祝いしました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や庭でおやつを食べたり外気浴、買物・毎月の喫茶外出等を行っている。 家族の支援により散歩・喫茶外出やショッピングモール・自宅などに出かけています。 毎年の外出行事には、ご家族の参加も募っている。季節によってピクニックを行います。	敷地内や事業所の周囲を一周する散歩とともに、近隣の店舗を巡る買い物外出が外気浴を兼ねて頻繁におこなわれています。また初詣、しだれ梅と桜の花見、ミニピクニック、紅葉狩り、月見といった時節に合せた外出行事もあります。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では事業所が金銭管理を代行しているが、利用者と一緒に買い物に行き、商品を選んで購入している。 金庫管理者を増やすことにより、事前に用意をし柔軟に買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクリエーションで作った葉書に文章を書き渡せる様にしてある。 外部から葉書等届いた場合は家族にも連絡し見えていただいている。 ご家族の都合の良い時間帯を事前に聞き取り、日常的に電話を使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節物のポスターや利用者の作成したちぎり絵、行事の写真などをリビングに貼り季節感を出しています。 湿度や温度はデジタル温度計を使用し調整を行っている。昼間はカーテンを明け明るくしている。 昼間に懐メロを流し歌ったり、季節の花を定期的リビングに飾っている。	早番、遅番、日勤、夜勤帯がどこを掃除するかは一覧にまとめられており、清掃箇所も乾燥機のフィルター清掃やタンス拭きというように、忘れがちなエリアを指摘して、実際フロア全体が清潔です。	掲示の貼紙のテープが浮いている箇所があります。書面の掲示物の美化について見直すことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを椅子席とソファスペースに分け、自分の好きな場所で自由にくつろげるようにしている。 定期的に状況を見てソファの位置やテレビの位置を調整し利用しやすく工夫している。 人間関係を把握した上で、居場所の選択も配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物に囲まれて生活する為に、自宅から持ち込んだ家具を設置する等、自由に持ち込み使用している。 布団干しや洗濯・居室の換気など行い、衛生面でも気をつけている。 職員が現状危険な物が置かれていないか話し合っている。 若い頃の写真や塗り絵の作品を飾っている。	お嫁入り道具だったかと思うような使い慣れた筆筒がある一方でテレビやお洒落な籐いすなど新しいものも持ち込まれています。硬縮が強い利用者のベッドには、かませたり腰を浮かせるためのクッションが並んでいましたが、家族が都度症状に応じて運び込んでいるとのことです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーや車イスで自走できるバリアフリーや電動ベッドの導入・手すりの増設、トイレに設置されている可動式レバーがあり、安全に生活するための環境が施してある。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2371401221		
法人名	有限会社 ネクストサブライ		
事業所名	グループホーム 緑葉の家 2号館		
所在地	名古屋市緑区水広三丁目715番地		
自己評価作成日	平成30年12月9日	評価結果市町村受理日	平成31年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371401221-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2371401221-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成30年12月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「長生きしたくなる家」を最終目標として、その実現に全職員で取り組んでいます。</li> <li>・固定された日課・画一的な押し付けの介護から脱却し、「その時」の「その人が望む」最適な介護サービスの提供を目指しています。</li> <li>・入居前の生活環境との断絶を回避できるように、最大限の支援に取り組んでいます。</li> <li>・一事業所の枠内に留まらず、様々な地域資源・他事業所との連携を強化し、入居者・ご家族の要望に応えるべく努力しています。</li> <li>・毎月の季節の行事企画や外出支援に力を入れています。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>新興住宅地のため地域交流の進展はないものの、2つの良策を以て余りある取組みが実現している事業所です。1点目は、コンビニエンスストア、チェーンの薬局や洋服店、喫茶店といった地域資源を活用して、利用者の外気浴を伴う外出支援が充実しています。2点目は前述の取組みにプラスαとして、一人ひとり何日にどこに出かけたかを9名(ユニット)全員『外出票』として一覧にしており、頻度や行き先、ひいては馴染みの場所を把握することで、サービス提供票の作成もスムーズで、一挙両得の取組みとして昇華しています。訪問時にも「散歩日和だね〜。さっきコンビニで買ったの」と、文春をよみふける利用者の姿も視認しました。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所・玄関に掲げすぐに確認できる様にしてある。 法人の掲げる理念及び運営目標が書いてある朝礼FAXを職員で毎週読み上げ皆で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を利用者と共に届けたり、地域清掃や廃品回収・防災訓練にも積極的に協力している。行事等近くのコンビニ・ドラッグストアに駐車場を貸してもらっている。散歩時の挨拶や畑から野菜を頂いたりしている。あき祭り、推進会議等声かけして参加していただいている。 自治会の防災訓練に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域清掃や近隣のボランティアを定期的に受け入れ施設行事に招待・年に1回のあき祭りでは地域の方にホームを開放している。運営推進会議では介護を取り巻く現状を家族や地域住民を交え意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	緑区北部いきいき支援センター職員や他ホームの館長・近隣住民にも積極的に声かけし参加していただいている。 ホームの現状報告以外に、介護保険法の変更点や法人からの報告などもお伝えしている。 家族の意見や心配事など聞き取り記録しホームの運営に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の主催している研修に参加し推進会議時に発表したり職員に伝達し情報を共有している。 市・区役所の担当者来設時や出向いた時などに、事業所の現状を報告するとともに、サービス向上のアドバイスをいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修や3月に1回身体拘束適正化検討委員会を開き身体拘束についての理解・確認を行っている。 拘束と疑われる事例が発生するたびにミーティング等で介護方法を再検討し、拘束解除に向けて取り組んでいる。各フロアの事務所に、職員の目の届くところにマニュアルが設置されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修に組み込まれており、ミーティングや職員会議時などにも、虐待につながる恐れが無いかを確認している。 朝礼FAXに虐待根絶サービス根絶委員会より虐待根絶にむけて呼びかけがあるので職員で読み上げている。 虐待の芽チェックリストを使用して自己確認を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護センターを利用されている入居者がいるので、来設時話し合いの機会を設けている。 支援が必要と思われる入居者・ご家族には、制度を説明して利用をお勧めしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書類をお渡しして、ご自宅でゆっくりと確認する時間を確保している。契約時には疑問点を解消したうえで契約を心がけている。退居の際には、退居先との連携も含めてご家族と話し合いの場を設定し、対応を相談している。また、改定の際には個別に時間を割いて説明を行い、同意書に捺印をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「気付いたことがありましたら遠慮なく相談して下さい」とのプラカードを掲げている 玄関に政本グループが目指す介護サービス7項目が掲示してあり本部の連絡先が載っている。 ホーム来設時や運営推進会議等に参加された御家族様からの意見や感想を聞く機会を作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	給与、勤務疑問110番・政本グループ人事委員会からの相談受付等事務所に貼りだしをしている。職員会議、1号館・2号館合同ミーティングなどで、意見交換を行っている。 年2回の社内研修において職員間でホームの改善点や運営について話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働生産性改善委員会を立ち上げ残業ゼロを目指している。 基本給の引き上げや地域手当の加算だけでなく、実績に応じた手当支給や利用率によって達成手当が支給されている。 有給休暇の取りやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時研修の他、毎月の社内研修や管理者研修等、法人内での研修の場を継続的に設置している。 月給正社員規定、日給正社員規定が定められ、年に2回社員研修(G課程)を行っている。 新入社員には統一した指導が行えるようミーティングを行っている。 外部研修の際にはシフトの休暇を優先している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は可能な限り介護職員を実態調査等に同席させる事によって、同業者との交流・人脈づくりを支援している。 入居相談時ケアマネージャーや相談員をホームに招き入れ、活動内用や状況を話し合っている。 運営推進会議に知見者として他ホームの館長を招いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必要に応じて事前面談や見学を数回実施して、ご本人との信頼関係構築に努め、ご本人が納得された上での入居に至るよう心掛けている。 実態調査をホームで行うなどして実際に雰囲気を見ていただいたりしている。実態調査がホーム外でも職員も同行し本人と話し合いの場を設けている。 入居の際、生活パターンの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談から入居までの間に、数回にわたって相談の場を設定し、相談までの経緯や今後のご希望を詳しくお聞きする事により、ニーズの把握や信頼関係の構築に努めている。入居相談の際、必要であればユニットの職員も同席して面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや病院関係者等とも連携し、当ホーム入居だけに固執せず、他系列・他種サービス等の他事業所への紹介も含めて、最善のサービス提供方法を検討している。近隣事業所との良好な関係の維持に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いやレクリエーション・生活リハビリをはじめ、疑似家族として入居者・職員がお互いに支えあえる雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あき祭りや初詣、しだれ梅の花見等の季節の企画に家族の方に参加していただき、関係作りに努めている。 家族が来設され喫茶店やショッピングモールなど近隣の店に外出されます。 野菜の差し入れや家族様の自家用車に職員が同席して出かけることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の支援のもと自宅や近隣の店で昼食を食べに行きます。娘様のボランティアグループも来られ喜ばれています。 昔の教え子や母の日の行事に参加される友人が来設され話をされます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでカルタ・トランプ・数字合わせなど利用者自ら競う様にやられています。 仲の良い利用者同士でリビングのソファに座ったり喫茶外出に行きます。 外部ボランティア来設時、協力し合って作品作りをしている様子が伺えます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に出向き面会や話を聞きにいきます。退居先の関係者とも連携して、サービス向上に協力している。退去後の1年近くの家族が来設され挨拶をされていきました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にコンビニやドラッグストアなどで買い物を楽しみ、おやつ時に珈琲など飲まれている。誕生日に好きであるノンアルコールビールでお祝いをしました。庭先でおやつを食べたりして楽しみを作っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居後も家族・関係者から情報を収集する機会を増やし、全職員が情報を共有できるように努めている。以前の暮らしや生い立ちについて話をされるので、話を伺いながら情報収集を行っている。以前の施設のケアマネと繋がりを保ちホームに来設されています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、介護詳細記録を毎日書くことにより、状態を細かくチェックしている。看護記録を確認し状態の把握に努めている。必要であれば毎日の検温・血圧計の測定・入浴時は全員測定をしている。なるべく関わる時間を作り状態把握に努めている。朝礼時変化のある利用者の申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の望む生活、ご家族の思いを事前に聞き取り、日々の暮らしぶりを来設時に伝えている。介護記録を毎日記録し介護計画に反映させている。必要に応じて協力医や看護師と連携し助言をいただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にサービス計画書を添付してあり、いつでもすぐに見て把握できるようになっている。介護記録・詳細記録・看護記録・ノート等を利用して心身の状態把握に努め、状況変化に応じて速やかに介護計画を修正できるようにしている。服薬の変更等職員全員が把握できるように申し送りノート・受診記録に記入を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時により家族で対応できない時など、受診の付き添い及び救急対応・救急車の同乗、入院の付き添いを行います。ホーム近隣の店舗に職員と共に買い物に出かけます。必要であれば時間外の面会にも対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各種ボランティアの導入、消防署や地域の活動や店舗にも積極的に出向き、緊急時にもスムーズに協力していただけるように連携を図っている。訪問リハビリや介護タクシー、介護用品業者との関係を強化し、様々な要望に対応できるように準備をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週の往診の他電話相談もできる。往診来診時、病状の相談にも対応していただいている。事前にファックスを流すことにより、必要な処置をスムーズに行うことができる。歯科の場合は治療の他口腔ケアも行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師が出勤時、1週間の状態を伝え情報の共有化を図っている。介護記録、介護詳細記録、受診記録、往診ノートを活用し看護アドバイスの活用に繋げている。必要時主治医に相談連絡を入れる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の医療機関と連携を確保しており、入院の是非・退院後の対応相談も含めて病院関係者との情報交換を頻繁に行い、早期退院・帰所を目指している。協力医や看護師からも、積極的な調整協力を頂いている。入院時ADL報告書を作成し医療従事者が対応しやすいよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化があった場合、個別に話し合いの場を設けて方針を決めており本人・ご家族の意向に沿うべく、看取りだけではなく、医療機関や他施設への転居等も含めて最善の対応に努めている。入居時、運営推進会議等でも話し合いの場を設けている。主治医・看護師と24時間連絡とれる体制をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修の他、緊急時の対応手順書を掲示しており、落ち着いて対応が出来るように準備している。救急隊への情報提供表・ADL報告書も定期的に見直しをし、即座に提出できるようにしている。職員が外部研修などにも参加し知識を活かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実践的な避難訓練を5月と11月に(昼間想定、夜間想定)定期的実施している。5月は水害訓練実施。災害対策マニュアルが事務所に掲げてあり、いつでも閲覧することができる。毎朝自衛消防組織担当の確認をしている。自治会の防災訓練に参加することにより、協力体制が取れるよう努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議や毎日の朝礼時、ミーティング・職員会議等によって接遇の徹底を図っている。 利用者の気持ちや言葉をしっかり聞くよう心掛けている。 できる限り丁寧な言葉遣い対応を意識して対応している。 居室清掃時など訪室時声掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が積極的に話しかけることにより、本人の思いを引き出せるよう努めている。会話の中で利用者の思いややりたいことなど意見を聞くよう心掛けている。 自己決定しやすいよう簡潔に話している。 寝汗で朝着替えをしたい方がいるので洗濯物を出していただいている方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者にとって生活の場であることを常に意識して、書き物やゲーム、新聞を読む時間を作り、毎日を穏やかに過ごせるよう、支援に努めている。 体力のない方には、居室で横になる時間を設けてある。 必要に応じ時間の取り決めをせず(食事の時間など)柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の商店に職員と共に本人の好みや、季節に合った洋服を買いに行っている。 訪問理美容や爪切りなども定期的に行い、身だしなみに気をつけている。 理美容時髪長さやパーマ・毛染めなど本人の希望に合わせて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りを利用者と共に行い盛り付け等行っている。 仲のいい利用者同士でテーブルを囲み食事をしている。 お手伝いできる方には、食器拭きを行っている。 見た目の美味しさにも気を付けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人や家族の希望される食事量を考慮し提供している。 嚥下の状態が悪い方は刻み食やミキサー食を提供し栄養確保に努めている。 個別にジュースやココア・カルピスの提供を行っています。 ストローを使用し水分摂取されている方もいます。 必要であれば水分チェック表の活用を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の協力を得て、定期的に口腔内の健診を受けている。食後に口腔ケアを行っている。 ポリドントやモンダミン等使用し口腔内の清潔を心がけています。口腔ケアに必要な歯ブラシ・スポンジブラシやコップの清潔保持にも気を付けている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけをしてトイレで排泄できるよう努めている。 排尿チェックシートを活用して排泄パターンを把握してなるべくトイレで排泄できるよう支援している。 立位の保てる方はトイレで排泄し、ズボンの上げ下げが出来る方は自分でできるようケアに努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分摂取量の維持や毎日の散歩や体操を取り入れている。 腹部マッサージや、家族の支援によるサプリメントの提供なども行っている。 便通の良い食材やヨーグルトの提供を行っている。 必要に応じて主治医・看護師と相談して薬の量の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1日おき～週2回等、入浴頻度も固定していない。 希望に応じて個別対応や人間関係に配慮し、柔軟に対応している。湯船につかりたい人、シャワー浴がいい人など個別に対応している。 体調の悪い方には清拭や陰部洗浄を行っている。 足湯をされている方もいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	重度化された方などはクッションを使用したりして、楽な姿勢になる様に工夫をしている。 状態によっては日中でも居室で休めるよう支援している。 光や温度の調節を行っている。 寝具の清潔を保ち睡眠の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護師・薬局と連携をとり、複数の医療機関からの処方箋を協力薬局に一元化して管理している。全利用者の飲まれている薬の一覧ボードを作り一目でわかるようにしている。薬の変更時、申し送りノートや受診記録に記入し職員皆が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者同士でカルタ・数字合わせ・トランプなどを行っている。 食器拭きや洗濯物たたみ等手伝いを行っている。 散歩や外気浴・喫茶外出をする機会をつくり気分転換を図っている。趣味の書道や裁縫が活かせるよう支援をしている。 誕生日会にノンアルコールビールを飲みお祝いをしました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や庭でおやつを食べたり外気浴、買物・毎月の喫茶外出等を行っている。 家族の支援により散歩・喫茶外出やショッピングモール・自宅などに出かけています。 毎年の外出行事には、ご家族の参加も募っている。季節によってピクニックを行います。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では事業所が金銭管理を代行しているが、利用者と一緒に買い物に行き、商品を選んで購入している。 金庫管理者を増やすことにより、事前に用意をし柔軟に買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	レクリエーションで作った葉書に文章を書き渡せる様にしてある。 外部から葉書等届いた場合は家族にも連絡し見せていただいている。 ご家族の都合の良い時間帯を事前に聞き取り、日常的に電話を使用できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節物のポスターや利用者の作成したちぎり絵、行事の写真などをリビングに貼り季節感を出しています。 湿度や温度はデジタル温度計を使用し調整を行っている。昼間はカーテンを明け明るくしている。 居間に懐メロを流し歌ったり、季節の花を定期的リビングに飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングを椅子席とソファスペースに分け、自分の好きな場所で自由につろげるようにしている。 定期的に状況を見てソファの位置やテレビの位置を調整し利用しやすく工夫している。 人間関係を把握した上で、居場所の選択も配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物に囲まれて生活する為に、自宅から持ち込んだ家具を設置する等、自由に持ち込み使用している。 布団干しや洗濯・居室の換気など行い、衛生面でも気を付けている。 職員が現状危険な物が置かれていないか話し合っている。 若い頃の写真や塗り絵の作品を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーや車イスで自走できるバリアフリーや電動ベッドの導入・手すりの増設、トイレに設置されている可動式レバーがあり、安全に生活するための環境が施してある。		